

第4回 塩津地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成29年12月16日（土）

午後1時30分～午後4時30分

会場：塩津公民館 講義室

主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：30
趣旨と経緯について ・ワークショップの趣旨・目的 ・前回ワークショップでの議事概要	1：35
検討の進め方とスケジュールについて	1：50
オープンハウス結果概要	1：55
塩津地区の地区利用型施設再配置プラン案について ・地区利用型施設再配置プラン案（追加案） ・地区利用型施設再配置プラン案の比較・評価	2：00
（休憩）	2：20
グループ討議 ・評価の内容についての確認と修正提案	2：30
（休憩）	4：00
発表	4：10
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ワークショップの趣旨・目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・第3回ワークショップの結果概要（案）・・・・・・・・・・・・ 2
- ・進め方とスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ・事実関係についてのご質問への回答・・・・・・・・・・・・・・ 16
- ・第3回ワークショップふりかえりシートご意見・・・・・・・・・・・・ 17
- ・塩津地区の課題と課題解決に向けた方策・・・・・・・・・・・・・・ 19
- ・塩津地区 地区利用型施設再配置プラン案・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ・再配置プラン案の評価検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- ・本日の検討内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- ・（別冊）塩津地区オープンハウス結果概要
- ・（別冊）項目ごとの評価の解説

次回ワークショップのご案内

「第5回塩津地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

平成30年2月3日（土）

午後1時30分～午後4時30分（開場：午後1時15分）

2 会場

塩津公民館 2階 講義室

3 お願い

- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日、資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた塩津地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった” “住み続けたい” と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

第3回ワークショップの結果概要（案）

1 各案に対する意見

■ 全案共通

- 駅の北側だけで施設配置が考えられているので、南側の住民のアクセスの公平性に配慮が必要だ。そのために塩津地区内だけではなく、地区を越えた複合、集約も考えてはどうか。
- 小学校が中学校に移設されると通学が不便になり、安全面からも問題が出てくる。避難所の分散化の観点からも小学校と中学校は分かれている方がよい。
- いずれの案でも、機能を果たすのに十分なグラウンド、体育館、駐車場の面積が確保できるかが課題になる。
- 築年数だけで存続や移転を決めるのではなく、防災の視点からも考えるべき。例えば鹿島こども園は津波が来たときに被災する恐れがあるのではないかな。
- どの案であれ2つの保育園を集約することでサービスの充実が期待できるので賛成だ。
- 地区内の2カ所にグラウンドが必要だと思う。避難時に十分な駐車場スペースが確保でき、片方がイベントで使用していても、もう片方で部活動ができるなど利用の際の融通がきくようになる。
- 複合化、集約化によって跡地が発生する場合には、その跡地の利用プランを想定した上で施設配置を計画する必要があるのではないかな。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ A 案

● 期待

- 保育園、小学校、中学校、公民館が複合化されることで、多世代の交流が促進されるのが良い。
- 保育園、小学校、中学校が一体となって整備されるのは、子ども達の教育面や生活面に良い効果があるのに加え、送迎の負担や登下校時の不安が軽減されるので、保護者にとっても良いと思う。
- 児童館は、主に乳幼児から中学生までが使っており、プレイルームで異年齢の子どもが一緒になると危険な場面もあるので、児童館から小学生の利用が減ることで未就学児が安全に遊べるようになるのは良い。
- 分散投資して中途半端になるよりも、1カ所に集中して投資することができる方が良いものができると思う。
- 高台にある中学校に施設を複合化するのは災害を考慮するとよい。
- 塩津小学校は地区の中心にあり利便性が高い土地なので、高く売却できる可能性がある。売却できれば市の財政にとっても良いのではないかな。

● 懸念

- 中学校に小学校、保育園、公民館の全てを複合すると、各施設に十分な機能を整備するには敷地面積が足りないのではないかな。特に、小、中学校のグラウンドや体育館が狭くなって部活動に制約がかかったり、行事があるときに駐車場が確保できなくなることが心配だ。
- 中学校に小学校が集約されると、鹿島・拾石地区の子ども達の通学が大変になる。小学生は自転車通学ができないし、特に低学年の子どものが心配だ。通学バスなど公共交通の整備が必要ではないかな。
- 小学校の跡地が売却されてしまったら、避難所として使えなくなるのではないかな。避難所となる拠点が中学校だけになってしまうのは心配だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 保育園、小学校、中学校が一緒になると、保育園の園庭やプールが小、中学校とは別に確保できるのか、小、中学校で1つのグラウンドを使うと授業や部活動で支障が起きないか、2つのグラウンドを整備するとしたらスペースが取れるのかなどの懸念が出てくる。子ども達の安全が確保され、不自由が生じないような棲み分けが必要だろう。
- 小学校と中学校が一緒になると、小学生が中学生を怖がったり、中学生による小学生へのいじめが発生しないか心配だ。保育園から中学までずっと同じ場所で過ごすのはつまらないと感じる子もいるかもしれない。
- 小学校が中学校に移転して児童館が遠くなると、小学生の児童館利用率が下がるのではないか。児童館のあり方や利用の仕方が変わり、小学校との連携がしづらくなるがそれでよいのか。
- 公民館が駅から遠くなるので、車の運転ができない高齢者にとって公民館が使いにくくなるのが心配だ。
- 塩津小学校のように地区の中心にあり、利便性が高い場所が空くのであれば、跡地利用を考えた上で計画する必要があるのではないか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ B案

● 期待

- 保育園と公民館が移動するだけなので現状に一番近く、利用者の負担が低く抑えられそうだ。
- 中学校と保育園、小学校と公民館の組合せなので、利用の際に用途がかぶってバッティングが起こることがなく、それぞれの施設に十分なスペースも取れそうで現実的な案だと思う。
- 小学校周辺は地区内で一番アクセスが良いので、公民館で日常的に活動をするならば、利便性が高い。
- 小学校と公民館を複合化すれば地区の人の顔が見えるので、小学校のセキュリティを確保した上で一体的にするのは良いと思う。

● 懸念

- 中学校と保育園が一緒になると、保育園の送迎と中学生の登下校が重なった時に、車と生徒が錯綜して危険ではないか。安全性の確保のために、出入り口や通学路などに工夫が必要だ。
- 保育園が集約されて中学校に複合されると、十分な駐車スペースが取れなくて保育園の保護者が困らないか。保育園だけでなく各施設に十分な駐車場があった方が良い。
- 高台にある中学校敷地に保育園が移ると送迎が不便になる。特に自転車や徒歩の人が大変だろう。
- 万が一中学校が荒れるようなことになったら、園児に危険が及ばないか心配だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

■ C案

● 期待

- 小学校と中学校が一緒になれば、学習面や生活面での連携ができることによる様々な効果が期待できると思う。親にとっても部活帰りの下校が一緒にできるので安全性が高まるなどのメリットがある。
- 中学校敷地に多くのものを入れ込みすぎていないので各施設のスペースに余裕があり、地区に2つの拠点ができる点が良い。
- 保育園と公民館が複合することで現状の高齢者と園児との交流が更に促進され、双方にとって良い効果が生まれると思う。
- 高台にある中学校とは異なり、歩きやすくアクセスが良い小学校の立地に保育園を複合するのは良い。
- 日常的に利用する公民館が現在の場所に残るのは、アクセスの点から考えて良い。
- 児童館から小学生の利用が減ることで未就学児が安全に遊べるようになるのは良い。

● 懸念

- 小学校と中学校が集約されると、体育館やグラウンドの広さが十分に確保できるのか心配だ。
- 中学校に小学校が集約されると、小学生は自転車通学ができないので鹿島地区の子ども達の通学が大変になる。
- 現在の小学校の敷地に保育園と公民館だけを建てるのでは土地が余るのではないか。部活や住民のイベント用のグラウンドを作るなど、空いた土地の利用方法について検討が必要だ。
- 小学校と中学校が一緒になると、小学生が中学生を怖がったり、中学生による小学生へのいじめが発生しないか心配だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 小学校跡地での保育園の集約は場所的に問題が少なく、小、中学校でクラスメイトになる子ども達が小さい頃から交流できる点は良いが、車を利用していない保護者の送迎の問題が出てくる。
- 公民館の近くに学校の体育館がなくなってしまうと、実施できるイベントが限られてしまう。小、中いずれかの体育館が公民館から近距離にあるのが望ましい。
- 小学校が中学校に移転して児童館が遠くなると、小学生の児童館利用率が下がるのではないか。児童館のあり方や利用の仕方が変わり、小学校との連携がしづらくなるがそれで良いのか。

■ D案

- 期待
 - これまで利用してきた拠点施設が現状の場所に残っており、昔からの生活圏があまり変わらないのが良い。小、中学校も分かれたまま今の場所に残るので、通学や避難所の問題が発生しない。
 - 保育園を小学校に複合すれば、行事を一緒にできるので盛り上がるし、世代間交流もできる。両方に子どもを通わせている親にとっては送迎の利便性が上がり、保育園の送迎時に小学生の子どもの様子を見ることもできる。保育園を中学校に集約するよりもメリットがあるのではないか。
 - 公民館と幼児の施設が一緒にあると、高齢者と幼児の交流が生まれて双方にメリットがあると思う。
- 懸念
 - 現状でも駐車スペースが足りないのに、小学校、保育園、公民館を複合した場合に十分な広さの駐車場が確保できるのか心配だ。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 中学校を改築して規模が縮小されても、市街地調整区域なので余剰の土地の売却や土地の活用が難しく、有効に活用できないのはもったいない。
- 提案
 - 小学校に複合施設を作ると各機能のスペースが足りないのならば、交渉して農協の土地を購入し、スペースを確保したら良いのではないか。農協の土地なら児童館ともつながる。
 - 施設の改善の前に保育園の利用者を増やすための施策の変更をする必要があるのではないか。
 - 条件が満たせず保育園に入れなかったために遠方の幼稚園に行かざるを得ない子どももいる。保育園を集約する際には、保育園と幼稚園の制度の壁をクリアして、預かれるようになる方が良い。例えば、2つの保育園と幼稚園を集約してこども園をつくるのはどうか。それが無理ならせめて延長保育、2歳児預かりだけでもしてほしい。

■ E 案

- 期待
 - 小学校と中学校が集約されると、進学時の環境の変化がなくなるので不登校の防止になる。部活後に小学生と中学生と一緒に下校できれば親も安心だ。
 - 災害時の避難拠点を分散させるという点で、塩津北保育園を残すのは良い。塩津保育園は園庭裏の崖が危険だ。
 - 児童館から小学生の利用が減ることで未就学児が安全に遊べるようになるのは良い。
 - 塩津小学校は地区の中心にあり利便性が高い土地なので、高く売却でき

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

る可能性がある。売却できれば市の財政にとっても良いのではないか。

● 懸念

- 小学校も保育園も移転し、施設が地区の北部に偏りすぎているので、南部の住民が利用しにくい。
- 小学校と中学校が一緒になると、小学生が中学生を怖がったり、中学生による小学生へのいじめが発生しないか心配だ。
- 塩津北保育園は駐車場を確保しづらいことや交通量の多い道路に面しており危険性が高いことに問題がある。
- 現状では小学校の体育館で公民館の行事を行っていることもあり、公民館の近くに学校の体育館がなくなると実施できるイベントが限られてしまう。公民館の周辺に他の施設がないと、ますます利用率が下がるのではないか。
- 小学校が中学校敷地に移転して児童館が遠くなると、小学生の児童館利用率が下がるのではないか。児童館のあり方や利用の仕方が変わり、小学校との連携がしづらくなるがそれでよいのか。
- 塩津小学校のように地区の中心にあり、利便性が高い場所が空くのであれば、跡地利用を考えた上で計画する必要があるのではないか。

■ 新たな案の提案

- B案で中学校と保育園の複合に問題があるのであれば、B'案として保育園を塩津北保育園、もしくは小学校と中学校の間の土地に集約することも考えられる。ただし、塩津北保育園に集約する場合は、駐車場が足りなくなる懸念がある。
- D案をベースにして2つの保育園とあけぼの幼稚園を集約したこども園をつくる案を、D'案としてはどうか。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- D案で小学校と保育園のスペースを十分確保するため、公民館は中学校に移してはどうか。高齢者と中学生の世代間交流もできて良い。

■ 検討の進め方

- 保育園、小学校、中学校の統合や小中一貫校化に関しては、イメージでメリットやデメリットを話すのではなく、先進事例を参考にしたり教育の専門家の意見を聞いた上で実現性や効果を検証する必要がある。
- 専門家や現場の担当者、施設を利用している人などの意見を聞き、プラン作成や評価、最終的な絞り込みに反映する必要があると思う。
- 幅広い市民の声を踏まえてこのワークショップで議論すべきではないか。

■ その他

- 中学校への坂道は車が通過するにも狭く危険なので、道幅を広くしたり、登下校で別ルートにするなど、生徒の安全性を確保する策を検討してはどうか。
- 住民の命を守るためには災害に備えることが大切なので、災害を想定して施設の設計をしてほしい。それが結果的にコストを抑えることにもつながると思う。
- ボートレース場を有効活用するという発想もあって良いのではないか。避難所として利用する、保育園を複合化する、駐車場を日常的に使えるようにするなど。

2 8つの視点について

■ 各視点における評価内容

- 「子育てしやすい環境づくり」では、小学校、中学校で、グラウンド、プール、体育館等の教室以外での学びが十分にできるかが重要だ。
- 「多世代が利用できる場の創出」では、高齢者だけでなく障がい者や地区に多く住んでいる外国人が、気軽に行ける場所が整備されるかが重要だ。
- 「アクセス性の配慮」では、小学生、特に低学年の子ども達が通学しやすいか、駐車場の確保が十分かを評価してほしい。駐車場は保護者だけでなく、集約によって数が増える先生の方も考える必要がある。

■ 新たな視点

- 保育園、小学校、中学校の建て替え時に、体育館やグラウンドが使えず文化祭や部活動が制限される等、子ども達の教育環境に影響が出るのは問題なので、「建て替え時等の移行期の子どもへの負担」という視点も加えたい。

進め方とスケジュール

1

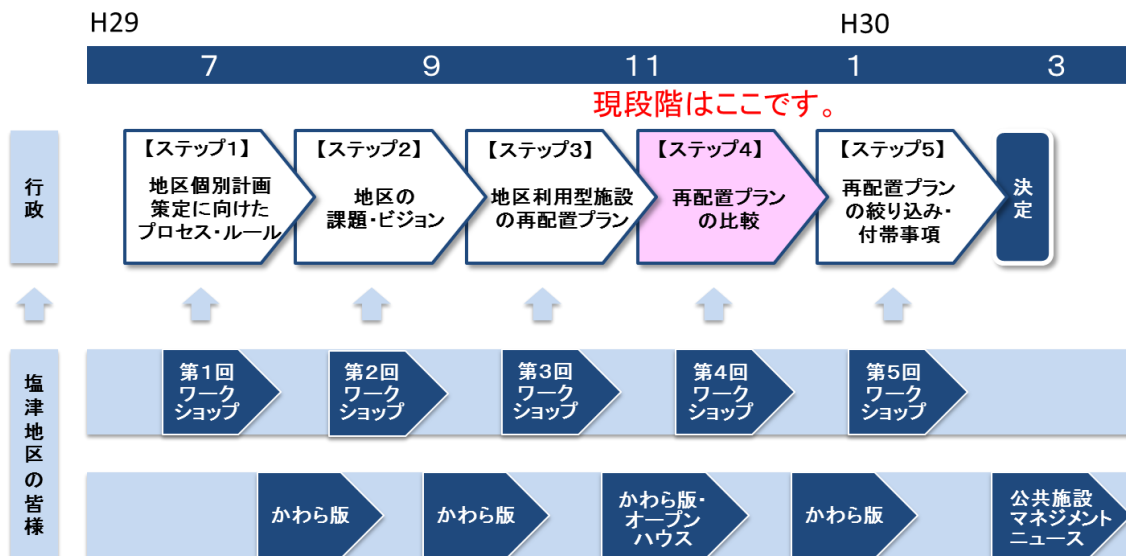
検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。
- ステップ5** 再配置プランの絞り込みをします。

2

スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版
- ・ 公共施設マネジメントニュース



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

塩津地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

塩津地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

【公共施設マネジメントニュース】

市の全世帯に配布するチラシです。ワークショップで検討された結果をお知らせします。

4 ワークショップの概要

- ・ ワークショップは、平成30年2月ごろまでに5回程度開催します。
- ・ 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- ・ 会場は、原則として塩津地区内の小中学校または公民館とします。
- ・ 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ・ ワークショップには、公募にご応募いただいた方が参加します。
- ・ 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ・ ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただきます。
- ・ 一般の傍聴者や報道陣が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- ・ グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会振興を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ・ ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、会の最後に各グループの議論の結果を発表し、後日、各回の成果として取りまとめます。
- ・ グループ討議の途中の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- ・ 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ・ ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行うことがあります。会場内で録音・撮影する場合があることをご了承ください。

6

ワークショップの成果

- ・ ワークショップの最終回までにまとめ上げた成果は、複数の再配置プランの評価結果を比較表として整理します。
- ・ 比較表の内容の一部（あるいは全体）は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。
- ・ 各回の成果についても記録として残します。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

事実関係についてのご質問への回答

ご質問	回答
<ul style="list-style-type: none"> 市内の各保育園について、他地区に通っている人数を地区別、保育園別に知りたい。 (メールでのご質問) 	<ul style="list-style-type: none"> 各保育園の園児数を中学校区別にまとめました。下表をご覧ください。

中学校区別園児数内訳

平成29年11月現在 (単位：人)

地区 保育園	大塚中 学校区	三谷中 学校区	中部中 学校区	蒲郡中 学校区	塩津中 学校区	形原中 学校区	西浦中 学校区	合計
大塚保育園	58	0	0	0	0	0	0	58
大塚西保育園	24	1	0	1	0	0	0	26
三谷東保育園	24	87	1	0	1	0	0	113
三谷西保育園	6	45	4	8	2	1	0	66
北部保育園	0	2	103	5	3	1	0	114
西部保育園	0	0	33	2	17	1	0	53
中部保育園	0	1	91	19	24	4	0	139
東部保育園	0	0	1	54	0	0	0	55
府相保育園	2	4	8	103	2	0	0	119
南部保育園	0	1	11	127	4	0	0	143
みどり保育園	11	46	8	74	1	0	0	140
塩津保育園	0	0	1	0	29	0	0	30
塩津北保育園	0	0	1	0	34	0	1	36
鹿島こども園	0	0	3	3	83	46	2	137
形原保育園	0	0	1	1	5	82	0	89
形原北保育園	0	0	2	0	1	83	1	87
形原南保育園	1	0	0	1	1	86	3	92
西浦保育園	0	1	0	4	0	6	80	91
合計	126	188	268	402	207	310	87	1,588

第3回ワークショップ ふりかえりシートご意見

1 今日の議論で良かったこと

- 具体的な A 案～E 案があったので、その案ごとに対しての意見が言えてわかりやすかった。
- 具体的な案に絞って討議が出来て、現実的なイメージが湧いて来たので良かった。
- 懸念は一通り吐き出せたと感じるので、後はその懸念を一つ一つ潰しながら詰めていく状態にまで議論を進められた。
- 案が具体的になったので、それに対して良い所と都合の悪い所が見つかって良かった。
- 案が出て、具体的に議論することができました。地区利用型施設の話をするということが共有できたので、話しもあまり横道にそれず深まった話になったと思います。
- 具体的な案に基づいて話げできたのでイメージしやすかったです。
- 学校教育について、従来の教育以外の視点の話が面白いと思いました。もう少し深く考えたいテーマであると思います。
- 市の方が討議に加わってわからない事をその場で教えてもらい、ムダな議論とならなかった。効率的に進められた。
- A 案は、鹿島地区の小学生への配慮ができると良い。
- 具体的な案に対して議論できたため、参加者それぞれの視点から多くの意見が出ており、とても良かったと思います。
- 各メンバーからまんべんなく意見が出されていた。検討内容が明確化されており、ブレることなく議論が進んだ。
- 具体的な案について、討議ができたことが良かった

2 内容について言い足りなかったこと

- ワークショップの議論対象外の話に及び事がけっこう多いのが気になる。
- かなり保育園、幼稚園、小、中などの話が中心となってしまったので、公民館についてももう少し深められると良いと思った。
 - 何ができる場所？
 - 何のための場所？
 - 何が行われているの？法的な位置づけは？（必ず設置しないといけない？要請すれば設置できるの？）
- 保育園の存続について、民営化がいいと思います。
- もっと早く資料を送ってほしい。事前に目を通す時間が足りない。
- 各テーブルとも駐車場への関心が低めかな？
- 愛知工科大も一時避難先として有効かと思いますが。
- （出ていたかもしれませんが）D案：公民館だけ中学校に（小学校の敷地が狭い、中学校の敷地を狭めなくてよくなる）
- 第2回ワークショップ意見まとめについて、「市から管理費を貰い地区の子供会が中心となって・・・」地区の子供達に、やらせることに意義があるのだから、業者にやらせては意味がない。
- ワークショップでは少子高齢化に向けて施設を小さくする事ばかりに議論が進んでいるが、この先少子高齢化ともなれば、高齢者に優しい避難所のあり方を考慮したり、避難所が災害や老朽化によって使用不可能な場合の越境避難を想定（隣接地区からの受け入れや隣接地区への避難）すると、これからの施設のあり方は、なんでも小さくするべきという考え方は正しくないと思われる。避難所として塩津地区に近い競艇場や、保健センターの他に市民会館という施設もあるが、津波などを想定した場合、立地に難があり、避難所としては機能しないとして考えてゆく必要があるのではと思います。

塩津地区の課題と課題解決に向けた方策

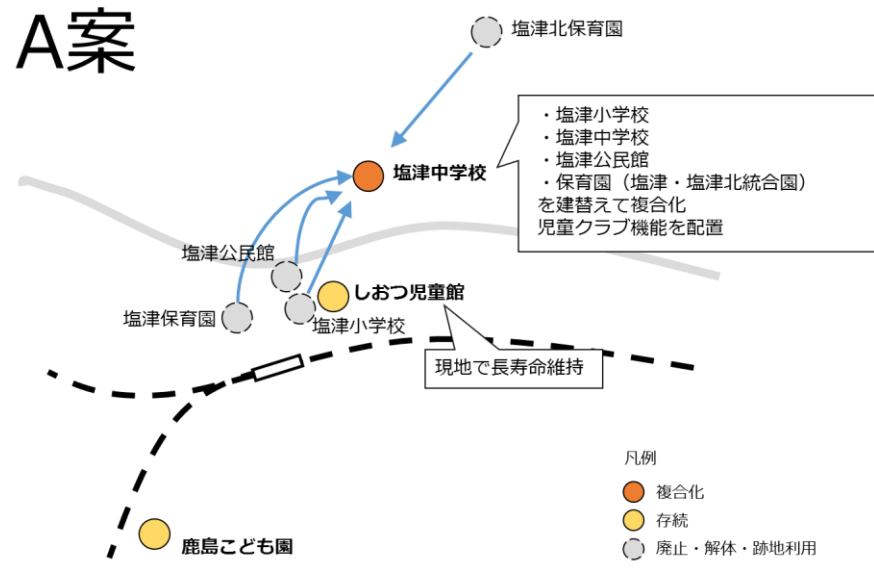
視点の整理		課題解決に向けた方策		
視 点	第1回・第2回WSでいただいたご意見要約、市及び地区の課題・配慮すべき事項	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 地区の活性化（まちづくり）	<ul style="list-style-type: none"> 塩津ならではの特徴がない 地域交流の度合いに差異がある 地域行事に対応した設備が不十分 地区全体としての一体感がないに加え、参加者が高齢化し、子育て世代が参加しなくなっている 地区内に働いて生活をしていけるような雇用を創出する企業がない 	<ul style="list-style-type: none"> 複合化することで行事や活動を一体的にできる場をつくる 地区の顔となる施設を整備し、情報発信をすることで、地区の特徴をつくる 	1 地域の中心となる活動拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事や活動の内容についての情報発信
② 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 利用しやすい保育園が必要 保育園の立地が不便 児童クラブが定員いっぱいでは利用できない 延長保育や低年齢児保育の未実施、入園手続きの多さ 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園と小学校の複合化を進めたり、幼小中一貫校や小中一貫校を導入する 塩津小学校と連携して学校内に児童クラブを設ける 	2 保育園・小学校・中学校の一体化 3 小学校内への児童クラブの設置 4 子育て支援施設と学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> 保育園での延長保育や低年齢児保育の実施、入園手続きの簡素化など保護者ニーズへの対応 保育園の民営化を含めた運営体制の検討 保育園でのプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びした保育を失わないように配慮する 保育園の地域とのふれあいを考慮する 市内の発達支援児や日本語学習が必要な生徒を集めてサービスを提供
③ 多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）が利用できる場の創出	<ul style="list-style-type: none"> 世代間で交流できる機会と場所がない 若者の地域への関心が希薄 外国人にとっても住みやすいまちに 増加する高齢者への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 小、中学校に公民館の機能を複合化したり、小学校、児童館、保育園、公民館を複合する 公民館を多世代交流の核となる施設と位置づけ開かれた雰囲気をつくりたまり場のような施設にする 	1 地域の中心となる活動拠点の整備 5 多様な方々の交流の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> 民間の喫茶店を入れるなどによる開かれた雰囲気づくり 「いきいきサロン」の周知と利用者増につながる工夫 外国人との関係を築くための運営の工夫 塩津地区全体で世代間交流ができる機会をつくる
④ 安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進む バリアフリー設備が不十分 複合化を前提とした場合の防犯対策 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化対策により安全への不安を解消する 	6 老朽化した施設の改修・改築	<ul style="list-style-type: none"> 学校に施設を複合する場合に、出入口をその他の施設とは別にするなど、学校への不審者侵入対策を図る
⑤ 災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> 再配置後も適正な避難所の確保が必要 十分なスペース、津波対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時対応の視点から考えれば公共施設は減らさず、ある程度分散すべき 津波時にも使える避難機能の確保 異なる立地の施設の機能補完 	7 避難所の分散配置 8 避難所の機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の充実 地域ぐるみでの対応
⑥ アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 十分な駐車スペースが必要 地区内の各所から通いやすい配置に 車を持たない人の送迎が円滑にできるように 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園、こども園、小学校は送迎しやすい立地に配置する 家から近い位置に施設を配置する 保育園の徒歩で通える良さを考慮する 十分な駐車スペースを確保する 	9 アクセスしやすい場所への施設配置 10 施設の分散配置 11 十分な駐車スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> 通学路の安全性を確保 公共交通機関の充実 車を持たない世帯への配慮 身近な集会場の活用・充実
⑦ 将来負担（コスト）の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 人口減・少子高齢化、税収減 限られた税金で何ができるか考える必要がある 建設費と維持費をできるだけ抑える 	<ul style="list-style-type: none"> 複合化、集約化によって投資を集中させることで、公共施設の機能を充実させる 地価の安い方に集約、複合化し、高い方の土地を売却する 低未利用地を有効活用する、使用していない備品は整理するなど、余計な出費を抑え、無駄なく活用する 	12 保有施設数を絞り投資を集中 13 費用対効果の高い移転先の選定 14 低未利用地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民を管理、運営ボランティアとして活用したり、NPOや市民クラブなどの民間への事業委託を進める
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> 利用率を高める工夫を 施設の管理体制を明確に 			<ul style="list-style-type: none"> 地域の人の交流を活性化するためのソフトの充実 年代や居住地区に関わらず、誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムの提供 建替え時等の移行期の子どもへの負担への配慮

I 施設を一箇所に集中させ、地域の拠点施設を整備する。

中学校敷地に施設を集中させるプラン

【重点を置いた解決策】1 12

- 塩津中学校に、塩津小学校、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、教育・地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 地域の中心となる拠点ができることによって、地域の行事や活動を一体的にできたり、多様な方々の交流が活性化する。
- 施設数を減らすことができる。
- 保育園から中学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 小学校・公民館跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 8 12 13

課題

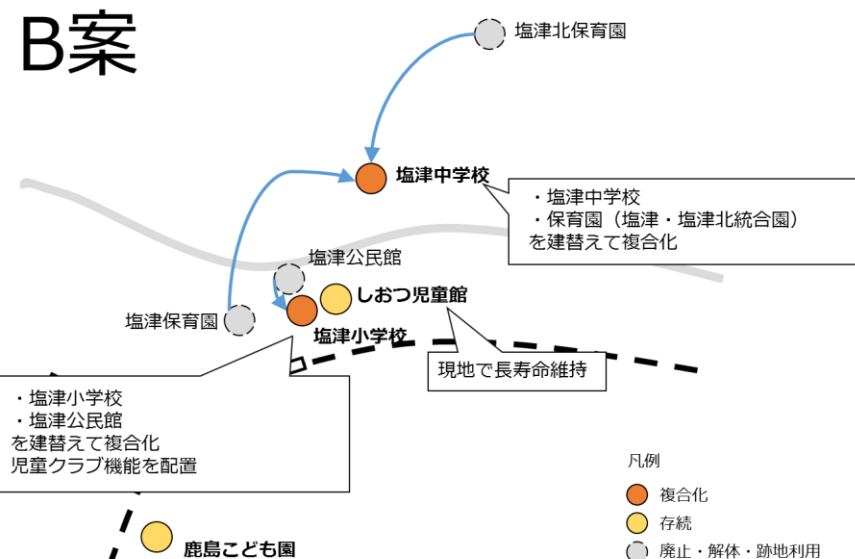
- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。
- 地区の南部からのアクセス性が低下する。
- 中学校の敷地面積では、必要な機能を十分に確保することは難しい可能性がある。

II 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

多様な方々の交流の場を複数つくるプラン

【重点を置いた解決策】1 5

- 塩津小学校と塩津中学校のそれぞれに、新たな機能を複合化します。
- 塩津小学校と塩津公民館を複合化し、多様な方々の交流の場を形成します。
- 塩津中学校に塩津・塩津北保育園の統合園を複合化します。



特徴

- 小学校が地域の行事や活動の拠点になる。
- 小学生と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 保育園児と中学生の交流が可能となる。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 10 13

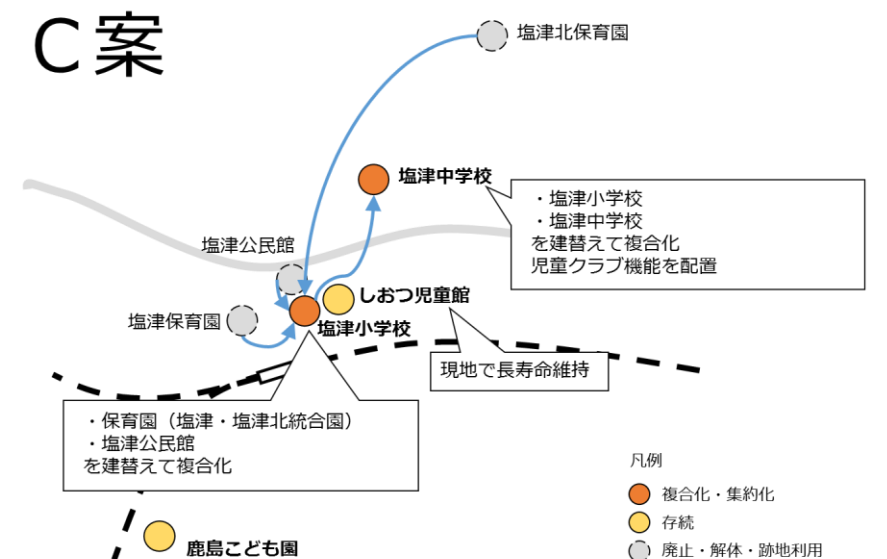
課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。
- 中学校敷地へは坂を上る必要があるため、車を持たない利用者等のアクセス性が低下する。

小中の一体化による教育の拠点とアクセスしやすい地域活動の拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】2 11

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津小学校の敷地には、塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館の複合施設を整備し、多様な方々が交流できる地域活動の拠点を形成します。



特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 保育園児と地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 交通利便性が高く、広い駐車場が確保できるアクセス性の高い複合施設ができる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】1 2 3 5 6 7 8 9 10 11 13

課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。

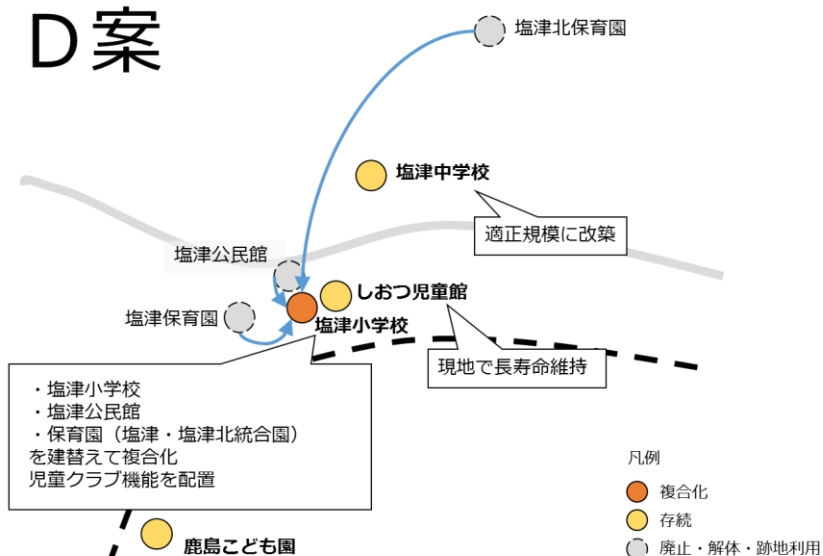
Ⅱ 施設を複数箇所に分散し、利便性と機能の向上を図る。

多様な方々の交流と充実した子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】4 5 9

- 塩津小学校に塩津・塩津北保育園の統合園、塩津公民館を複合化し、子育てと地域活動の拠点を形成します。

D 案



特徴

- 保育園から小学校までの一貫した子育て環境をつくりやすい。
- 保育園児・小学生・地域の様々な方々の交流が活性化する。
- 学校と公民館を一体的に利用した地域の行事や活動を行いやすい。
- 駅に近くアクセスしやすい位置に施設が集まる。

【関連する解決策】1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 13

課題

- 多様な利用者に対応した設備を整備する必要がある。
- 出入口を分けるなど安全対策が必要である。

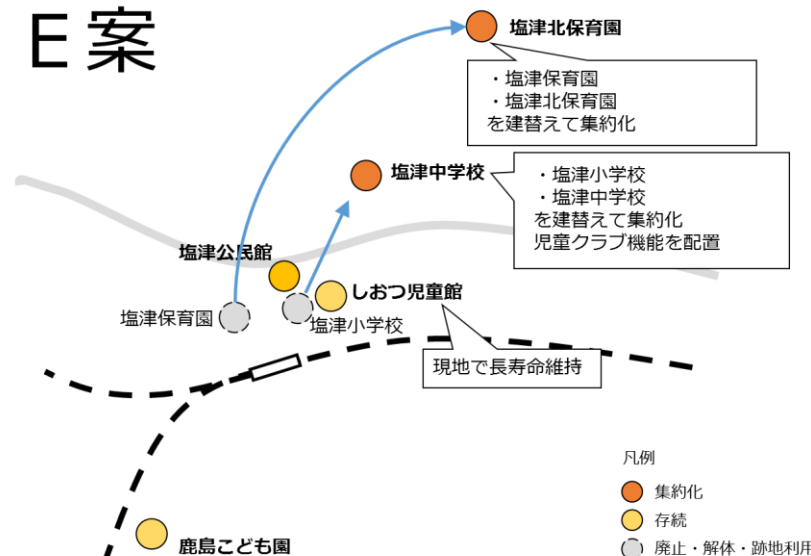
Ⅲ 同じ用途の施設を集約化して機能強化を図る。

同一用途の施設を集約するプラン

【重点を置いた解決策】2 10

- 小中学校の機能を集約した学校を塩津中学校の敷地に整備し教育の拠点を形成します。
- 塩津・塩津北保育園の機能を塩津北保育園に集約化します。

E 案



特徴

- 小中の一体化により教育環境を充実しやすい。また、小中は類似施設であることから安全面での問題が生じにくい。
- 施設が分散されている状態が保たれる。
- 避難所の分散配置が可能である。
- 公民館の駐車場が拡張できる。
- 小学校跡地の活用が可能。

【関連する解決策】2 3 6 7 8 10 13

課題

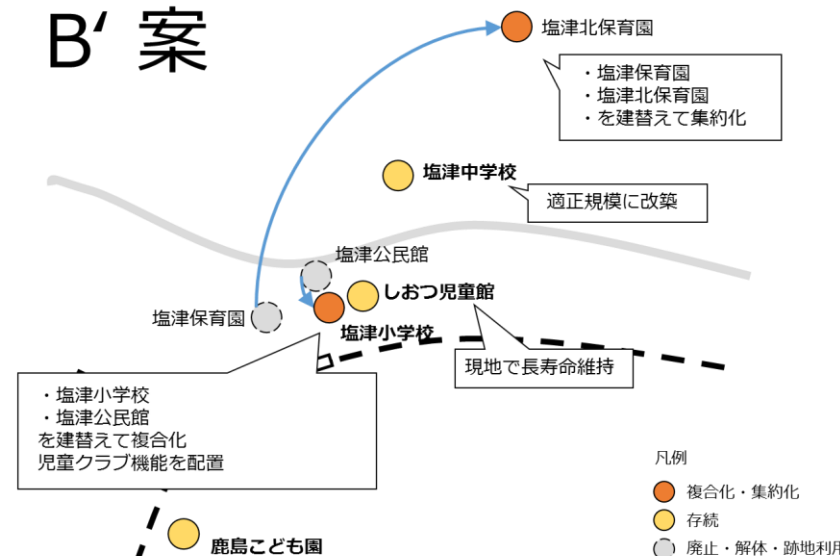
- 施設間の連携が取りにくい。
- 地域活動の一体性をつくりにくい。

Ⅳ ご意見に基づく追加プラン

B案の保育園の位置を変更したプラン

- 塩津小学校に塩津公民館を複合化します。
- 塩津・塩津北保育園の機能を塩津北保育園に集約化します。

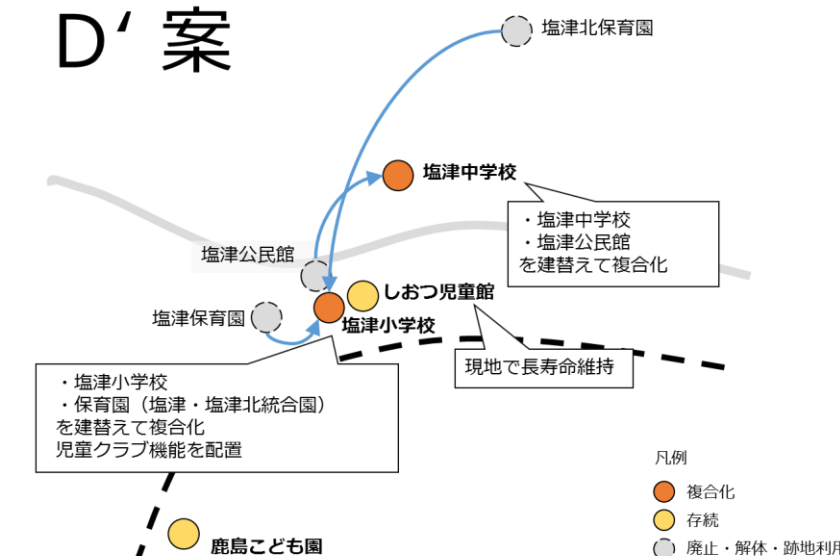
B' 案



D案の公民館の位置を変更したプラン

- 塩津中学校に塩津公民館を複合化します。
- 塩津小学校に塩津・塩津北保育園の統合園を複合化します。

D' 案



1 再配置プラン案を比較評価するための評価軸

視 点	内 容	評価項目
①地区の活性化 (まちづくり)	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民のつながりや塩津ならではの特徴に繋がる地区の行事や活動などが一体的に実施できる場となっているか。 	ア 地区の行事や活動が一体的にできる拠点は充実しているか。(地区の行事や活動に学校施設を利用しやすくなったかで評価) イ 新たな地区住民同士のつながりが生まれるか。(公民館と他施設との関係性で評価) ウ 地区の行事や活動の際に使う駐車場は十分に確保されるか。(公民館の駐車場の確保がしやすくなったかで評価)
②子育てしやすい 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地、規模、サービスの面から子育てしやすい環境となっているか。 ● 子どもの居場所・遊び場は確保されているか。 	エ 低年齢児保育や延長保育の実施など保育サービスが充実しているか。 オ 児童クラブの課題(待機児童と2箇所分散している問題)が解消されているか。 カ 子どもの送迎がしやすくなっているか。(児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価) キ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。 ク 保育園と小学校が連携しやすいか。 ケ 小学校と中学校が連携しやすいか。 コ 子どもにとっての新たな居場所や遊び場は生まれたか。
③ 多様な方々(若者・ 高齢者・障がい者・ 外国人)が利用できる 場の創出	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な方々(若者・高齢者・障がい者・外国人など)が関心を持って交流できる場は用意されているか。 	サ 公民館が多様な方々にとって利用しやすくなったか。(公民館の周辺人口で評価) シ 公民館を利用する様々な住民と保育園児の交流がしやすくなったか。(公民館と保育園の関係性で評価) ス 公民館を利用する様々な住民と小中学生の交流がしやすくなったか。(公民館と学校の関係性で評価) セ 学校での世代間交流が広がったか。(小学校と中学校の関係で評価)
④安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の老朽化への対応は適切にされているか。 ● 防犯面に配慮されているか。 	ソ 老朽化対策はできているか。(老朽化している建物が減っているかで評価) タ 学校の防犯対策はしやすくなったか。 チ 通学・通園の安全は高まるか。(保育園送迎の車と通学する児童生徒、学校や保育園の前面道路について評価)
⑤災害時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所の数・機能・位置は適切か。 	ツ 避難所収容人数は充足しているか。 テ 避難所は分散しているか。(避難所の位置と数で評価) ト 津波浸水区域にある施設数は減っているか。
⑥アクセス性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各所から通いやすい施設配置となっているか。特に車を持たない方にも配慮されているか。 ● 駐車スペースは十分確保されているか。 	ナ 施設までの距離の公平性が高まったか。(地区の区域内での施設の位置で評価) ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。(小学校の地形的な立地で評価) ニ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。(保育園の駐車場の確保がしやすくなったかで評価) ネ 保育園が徒歩で通園しやすくなったか。(保育園の数と地形的な立地で評価) ノ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。(公民館の地形的な立地で評価) ハ 公民館が利便性の高い位置になったか。(公民館の交通利便性の高さで評価)
⑦将来負担(コスト)の 縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。 ● 跡地は有効に活用されているか。 	一定期間の施設にかかる総コストが低いものを評価する。 ・面積が小さいなど、建設費・改修費・修繕費が安価な場合は総コストが低くなる ・土地の売却や借地による収入が発生する場合は、総コストが低くなる ・面積が小さいなど、建物の維持管理費(光熱費・保守点検費)が安価な場合は総コストが低くなる

2 評価方法

- 視点①～⑥については、評価項目ごとに ◎：現状より向上、○：現状維持もしくは一長一短がある、△：現状より低下 の3段階で採点します。
- 視点⑦については、LCC（ライフサイクルコスト）の試算における50年間の縮減額にもとづき評価します。（試算の結果及び条件等は別冊資料「項目ごとの評価の解説」p.13～16のとおり。）

視点	評価項目	A案	B案	C案	D案	E案	B'案	D'案
①地区の活性化（まちづくり）	ア 地区の行事や活動が一体的にできるか。（地区の行事や活動に学校施設が利用しやすいか、学校を巻き込んだ活動をしやすいかで評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	イ 新たな地区住民同士のつながりが生まれるか。（公民館と他施設との関係性で評価）	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎
	ウ 地区の行事や活動の際に使う駐車場は十分に確保されるか。（公民館の駐車場の確保がしやすくなったかで評価）	△	○	◎	△	◎	○	◎
②子育てしやすい環境づくり	エ 低年齢児保育や延長保育の実施など保育サービスが充実しているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	オ 児童クラブの課題（待機児童と2箇所に分散している問題）が解消されているか。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	カ 子どもの送迎がしやすくなっているか。（児童クラブ機能と保育園の位置関係で評価）	◎	○	○	◎	○	○	◎
	キ 学校のグラウンドや体育館を児童生徒が授業や課外活動で円滑に利用できるか。	△	○	△	○	△	○	○
	ク 保育園と小学校が連携しやすいか。	◎	○	○	◎	○	○	◎
	ケ 小学校と中学校が連携しやすいか。	◎	○	◎	○	◎	○	○
	コ 子どもにとっての新たな居場所や遊び場は生まれたか。	◎	◎	○	◎	○	◎	○
③多様な方々（若者・高齢者・障がい者・外国人）が利用できる場の創出	サ 公民館が多様な方々にとって利用しやすくなったか。（公民館の周辺人口で評価）	△	○	○	○	○	○	△
	シ 公民館を利用する様々な住民と保育園児の交流がしやすくなったか。（公民館と保育園の関係性で評価）	◎	○	◎	◎	○	○	○
	ス 公民館を利用する様々な住民と小中学生の交流がしやすくなったか。（公民館と学校の関係性で評価）	◎	◎	○	◎	○	◎	◎
	セ 学校での世代間交流が広がったか。（小学校と中学校の関係で評価）	◎	○	◎	○	◎	○	○
④安全の確保	ソ 老朽化対策はできているか。（老朽化している建物が減っているかで評価）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	タ 学校の防犯対策はしやすくなったか。	○	○	○	○	○	○	○
	チ 通学・通園の安全は高まるか。（保育園送迎の車と通学する児童生徒、学校や保育園の前面道路について評価）	○	○	◎	○	△	△	○
⑤災害時の対応	ツ 避難所収容人数は充足しているか。	○	○	○	○	○	○	○
	テ 避難所は分散しているか。（避難所の位置と数で評価）	△	○	○	○	○	○	○
	ト 津波浸水区域にある施設数は減っているか。	○	○	○	○	○	○	○
⑥アクセス性への配慮	ナ 施設までの距離の公平性が高まったか。（地区の区域内での施設の位置で評価）	○	○	○	○	○	○	○
	ニ 小学生が徒歩で通学しやすくなったか。（小学校の周辺人口と地形的な立地で評価）	△	○	△	○	△	○	○
	ヌ 保育園に駐車場は十分に確保されるか。（保育園の駐車場の確保がしやすくなったかで評価）	△	◎	◎	△	△	△	○
	ネ 保育園が徒歩で通園しやすくなったか。（保育園の数、周辺人口、地形的な立地で評価）	△	△	○	○	△	△	○
	ノ 公民館は高齢者が徒歩で利用しやすくなったか。（公民館の地形的な立地で評価）	△	○	○	○	○	○	△
	ハ 公民館が利便性の高い位置になったか。（公民館の交通利便性の高さで評価）	△	○	○	○	○	○	△
⑦将来負担（コスト）の縮減	LCC（ライフサイクルコスト）試算における50年間の縮減額（単位：百万円）	3,876	2,380	3,170	2,380	3,829	2,380	2,380

本日の検討内容

前回のご意見を反映させ作成した追加案を加えた合計7つの再配置プラン案をご意見にもとづく「評価の視点」を踏まえて評価しました。

評価の内容について修正点や配慮すべき点などありますか。